

報告

13. プリセプターシップ（教育制度）3年目に向けての検討～新人の立場から～

福井赤十字病院 ○村中 舞、田賀 陽子、平木 美和
西村 英明、石田 智広

【目的】

当院では2年前よりプリセプターシップを導入している。この制度では、毎月各部門責任者による研修プログラムやプリセプター（教育者）との面談を行い、研修ファイルに記録している。この他に一般撮影や透視検査などの撮影回数を書き込むチェックリスト、各業務における注意事項を確認するリスト、当直業務にむけてのCT、MRIのマニュアルなどで構成される。これらの中からプリセプターシップ3年目に向けてプリセプティ（新人）の立場からマニュアル、チェックリストについて改善点はないかを検討した。

【方法】

CT・MRIのマニュアルやチェックリストの利点と欠点を洗い出し、欠点に対しては改善策を検討した。これらをふまえて新規参入するモダリティ時に実践した。

【結果】

CT・MRIのマニュアルはほぼ書き込み式であるため、より理解を深めることができ、理解不足の箇所が浮き彫りになるため有効であった。チェックリストは指導者側のチェックされていないところが目立った。理由として研修ファイルが分厚く、チェックリストを探し出すまでに時間を要する、ファイルは私物であるため開きにくいなどが主に考えられた。これを改善するためにその時に必要なリストだけを別にバインダーに挟み、本人以外でも記入が容易になるようにした。これを実際に新規モダリティであるマンモグラフィ部門で実践したところチェックしやすく漏れがなくなった。

【考察】

今回の検討から、与えられたファイルをそのまま使うのではなく必要な部分を抜粋することで更に有効に活用していくことが可能になった。それにより、プリセプティ一人一人の進捗状況を客観的に把握してもらい、毎月のプリセプティとの面談では日頃の疑問や不安を軽減・改善でき、安心して業務を行えるようになった。今後、この教育制度で得られたことを活かして技師2年目でもっと飛躍していきたい。